

進行方式

## SP 型(圧力進行作動型定量バルブ)

MODEL	吐出口数	バルブ寸法 (L)
SP-4 (205540)	4	
SP-4K (205530)	4	
SP-4KS (205551)	4	
SP-6 (205541)	6	60
SP-6K (205531)	6	
SP-6KS (205552)	6	
SP-8 (205542)	8	
SP-8K (205532)	8	75
SP-8KS (205553)	8	
SP-10 (205543)	10	
SP-10K (205533)	10	90
SP-10KS (205554)	10	
SP-12 (205544)	12	
SP-12K (205534)	12	105
SP-12KS (205555)	12	



SP-8

## 仕様

吐出量	0.2mℓ/ストローク
吐出口径	使用管外径 6mm、4mm
注入口	Rc1/8
最大使用圧力	20MPa
最小作動圧力	2MPa
使用ちょう度範囲	NLGI No.0.000～No.2
監視機構	インジケーターピン(K型) 近接センサー付き(KS型)
材質	アルミ

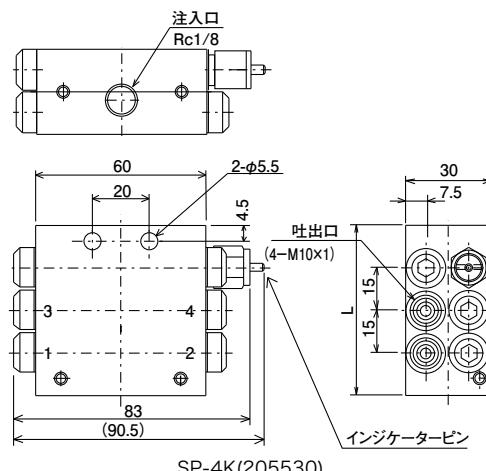
## MODEL

SPB (611785)
SW-10 (207611)
SPC (611677)
SPA-6 (619780)
SPS (611695)
SPN (611784)
SPA-4 (166005)

K:目視確認ピン付

KS:近接センサー付

## 外形寸法図



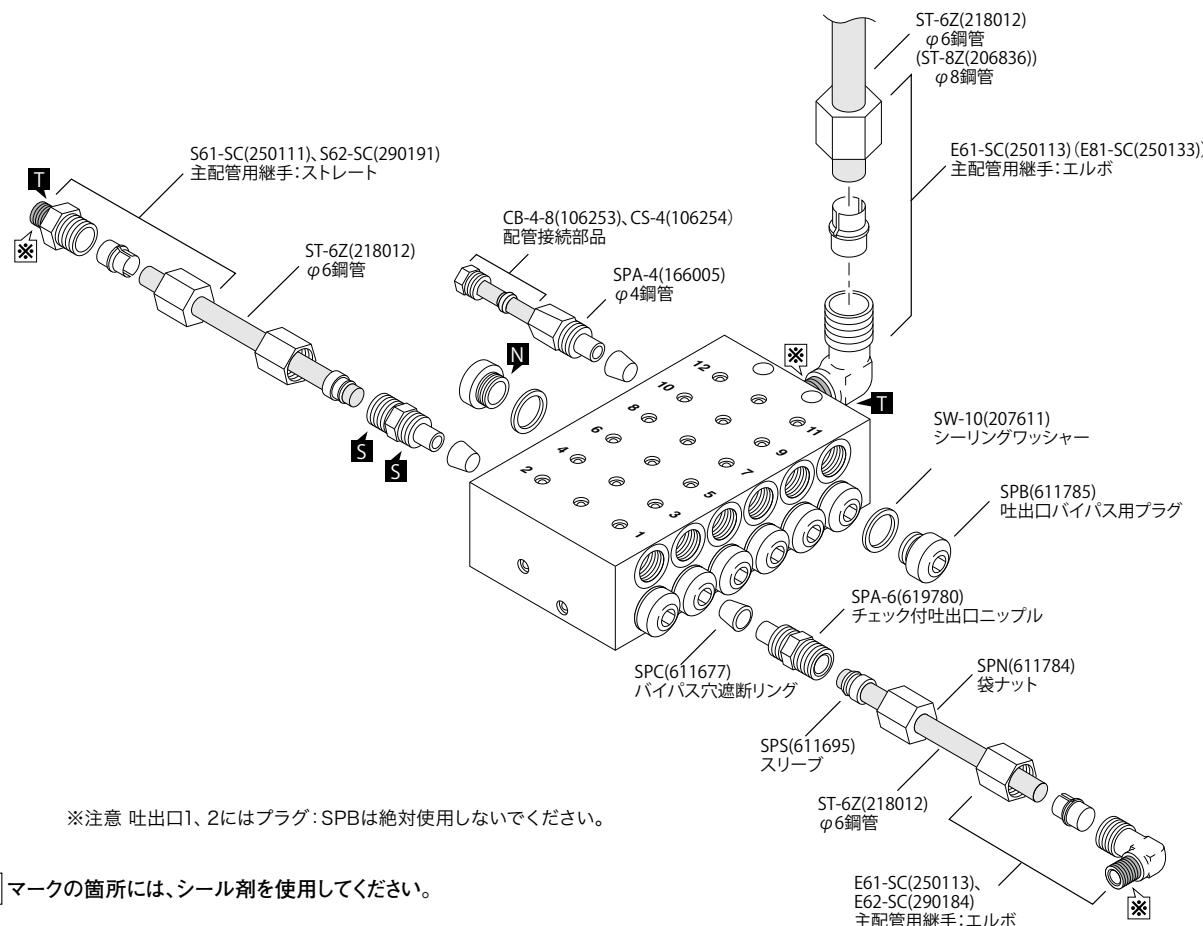
SP-4K(205530)

## 関連部品

●関連部品は下記のページをご覧ください。

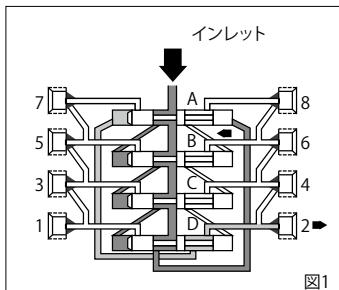


## 配管レイアウト図



## 作動原理図

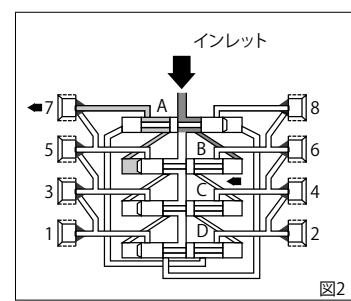
## ステップ1



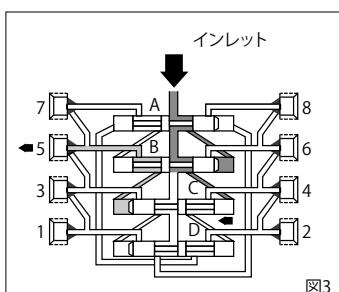
ポンプ又は、グリスガンによって圧送されて来たグリスは、ブロック上部のインレットから入って来ます。送られたグリスは、濃い色で示されたポートを通って、ピストン“A”的右側に至り、ピストン“A”を左方向へ移動させます。この時、ピストン“A”的左側のグリスは、薄い色で示されたポートを通って、2番のアウトレットより吐出されます。

## ステップ2

ピストン“A”が左方向へフルストロークしますと、図2に濃い色で示されるようにピストン“B”的右側に至るポートがつながり、ポンプからのグリスがこのポートを通ってピストン“B”を左方向に移動させます。この時、ピストン“B”的左側のグリスは、薄い色で示されたポートを通って7番のアウトレットより吐出されます。



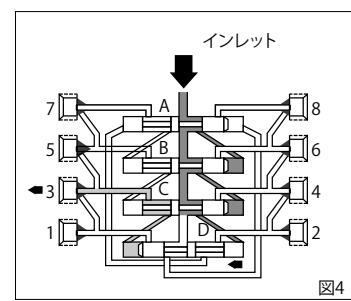
## ステップ3



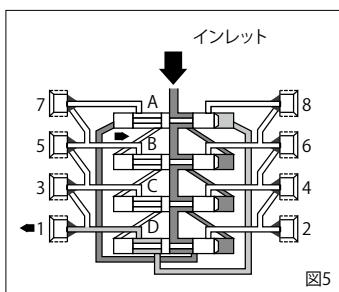
前回と同様に、ピストン“B”が左方向へフルストロークしますと、図3に濃い色で示されるように、ピストン“C”的右側端面に至るポートがつながり、グリスがこのポートを通って、ピストン“C”を左方向へ移動させます。この時、ピストン“C”的左側のグリスは、薄い色で示されたポートを通って5番アウトレットより吐出されます。

## ステップ4

ピストン“C”がフルストロークしますと、右図中濃い色で示される様に、ピストン“D”的右側端面に至るポートがつながり、ピストン“D”を左方向へ移動させます。この時、ピストン“D”的左側のグリスは、薄い色で示されたポートを通って3番アウトレットより吐出されます。



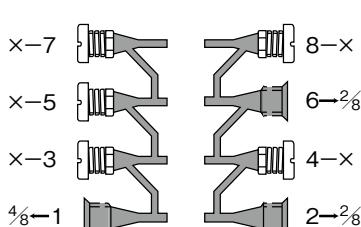
## ステップ5



今回は、ピストン“D”がフルストロークした結果、図中濃い色で示された様に、ピストン“A”的左側端面に至るポートがつながり、ピストン“A”を右方向へ移動させます。この時、前回作動油として働いたピストン“A”的右側のグリスは、薄い色で示されたポートを通って1番アウトレットより吐出されます。以後同様の繰り返しで8、6、4、2、7、5、3、1のアウトレットの順にグリスが吐出されることになります。

## 吐出量の設定／注意事項

例)



x : 吐出しません。

1 : 4倍の量が吐出します。

2、6 : 2倍の量が吐出します。

## ● 吐出量の設定

各吐出口はポンプ作動時に $0.2\text{m}\ell/\text{ストローク}$ のグリスが吐出されます。

一つの吐出口を閉じると次の吐出口にその閉じた分の量が追加され吐出されます。

例) #8を閉じると#6に $0.2\text{m}\ell \times 2 = 0.4\text{m}\ell$ が吐出されます。

#7、5、3を閉じると、#1に $0.2\text{m}\ell \times 4 = 0.8\text{m}\ell$ が吐出されます。

この様に潤滑点に必要な量を設定することができます。但し、#1、2は切換バルブになっているので絶対に閉じないでください。全体が作動しなくなります。

## ● 注意事項

- AP、SP型バルブの吐出口には、専用継手のみを使用してください。
- グリス吐出口に専用継手のチェック付吐出口ニップルを取り付ける場合、必ずバイパス穴遮断リングがセットされているかどうかを確認してください。又、グリス吐出口にプラグを取り付ける場合は、必ずバイパス穴遮断リングを取り外してください。バイパス穴遮断リングをセットしたままプラグを取り付けますとバルブ全体が作動しなくなります。
- バイパス穴遮断リングが確実にセットされるように、チェック付吐出口ニップル、もしくはコンプレッショナットを多少きつめに締めてください。
- グリス吐出口に専用継手をネジ込む場合は、上下どちらか端の方から順番に組みつけていってください。中間の吐出口から組み始めたり、途中をとばしたりしますとスパナが充分に回らず、組み付けできません。
- グリス吐出口にプラグをネジ込む場合は多少きつめに締めてください。又、一度使用した銅ワッシャーは必ず新しいものと交換してください。